



皆さんは、絵本は好きですか？絵本には沢山の魅力が詰まっています。今年度は、絵本に関する書籍を活用しながら《絵本について》ちょこっとお伝えしていきたいと思います。



6月の絵本紹介



『ずぼっ じー』

高橋 裕次 作・講談社

“ずぼっ”と砂に指を入れ、じーっと線を描いていくお話です。単純な動きですが、それがとても楽しく、砂遊びの楽しさを絵本でも感じられます。途中、みんなに人気者のダンゴムシも出てきて「あ！」と、つついそちらにも指をさしています。絵本を楽しんだ後は、砂場でやってみてくださいよ。

『てるてるぼうずさん』

西村 敏雄 作・白泉社

雨が降ると、つい「早く晴れて欲しいな…」と思いませんか？けれど、雨を喜ぶ生き物もいるのです。そんな事に気づかせてくれるお話です。てるてるぼうずさんの優しさに、ほっこりします。西村さんの絵も味があり、かえるの表情などにも注目すると楽しいです。

【ただ義務感からだけでなく、多少でも楽しんで読んでくださったら、それが何よりです。すなおに飾り気なく、そして、できれば心をこめて読んであげてください。それが、いちばんいい読み方だと思います。】

～『えほんのせかい こどものせかい』松岡 享子 文春文庫より～

読み方に関しては、【淡々と読むべき】や【演じながら読むべき】など色々な考えがあります。どれが正しいということは、私には言えません。けれど、松岡氏が書かれているように“自分が面白いと感じつつ、素直に心をこめて…”そんな読み方が、私も良いなと思います。特に、大人の気持ちが伝わる、という点に関しては、こんな経験があります。それは、昔私が2歳児の担任をしていた時のこと。その日は時間に余裕がなく絵本を読みつつも、次にする事を頭の中で考えていました。すると、いつもはクラス全体がぐっとお話に入り込んで楽しめる絵本なのに、子どもは全く集中できず、絵本を楽しめていなかったのです。その時、読み手の気持ちは伝わるのだと実感し、反省しました。せっかくの絵本タイム、まずは、読み手が楽しんで！は大切だと感じた出来事でした。

